

日本企業の国際経験と立地選択

上智大学 竹之内秀行
日本大学 高橋意智郎

キーワード：立地選択、国際経験、距離

I. イントロダクション

企業は、海外進出にあたって立地選択の決定を行う。その際の重要な要素の1つに、距離がある。距離は隔たりを意味し、企業はこの隔たりを考慮しながら、立地選択を行うのである。隔たりは国と国の間だけではなく、1国内の地域間にも存在している。とりわけ、国内における地域間の隔たりは新興国において大きいと指摘されている（Chen, Makino and Isobe, 2010）。つまり、立地選択は国レベルだけではなく、地域レベルにおいても重要な意思決定なのである（Belderbos, Olfen and Zhou, 2011）。

こうした隔たりが重要である理由は、隔たりのために企業が外国市場において不利な状況に置かれることにある。つまり、企業は外国市場において「外国企業であることの不利（LOF : Liability of Foreignness）」に直面するのである。Zaheer (1995)によれば、LOFは多国籍企業が海外でビジネスを行う際のコストを意味し、現地企業が負わない追加的コストである、と広義に定義される。LOFの根底にあるのは、外国企業ゆえに現地環境を理解することの難しさであり、LOFは多国籍企業理論における重要な仮定となっている（Hymer, 1967）。

そこで、本研究では、LOFに注目して日本企業の地域レベルにおける立地選択について検討する。その際には、2つの点に注目する。すなわち、距離と国際経験である。この距離と国際経験が立地選択へ与える影響を明らかにするのが本研究の目的である。研究対象としては、日系自動車部品メーカーの中国市場における立地選択を対象とする。

II. 先行研究の検討と仮説の設定

多国籍企業の立地選択研究における重要な概念として、LOFがある。繰り返し述べるが、「外国企業であることの不利」を意味する。したがって、「多国籍企業がいかにしてLOFを克服しながら外国市場に進出するのか」が立地研究における1つの研究領域となってきた。

先行研究の1つとして、LOFへ本国との距離からアプローチする研究がある。代表的な研究がGhemawat(2000)である。本国からの距離が離れば離れるほど、LOFは大きくなる。そのため、企業は距離を勘案しながら立地選択が行うことになる。したがって、距離がさまざまな側面から測定され、立地選択や参入モードとの関連が議論されていった。その後、立地選択研究は大きく2つに分かれていった。1つは地域レベルでの立地選択の議論であり、もう1つは経験に注目した議論である。経験に注目した研究は、さらに2つに分けることができる。1つは、自社の経験であり、もう1つは他社の経験である。不確実性への対応と

B 会場①

いう文脈の中で経験へ注目が集まったのである。他社の経験に関する議論は、産業集積の議論へとつながっていった。

その一方で、自社経験に関する議論は、ユニークな発展を見せるようになった。それは、従来 LOF を捉える尺度であった距離概念への影響である。代表的な研究として、Barkema, Bell and Pennings (1996)と Zhou and Guillen (2015)の2つの研究がある。

Barkema, et al. (1996) は、海外進出を説明するモデルの中でもウプサラモデルに注目した。ウプサラモデルは、企業の行動理論にベースを置いており(Cyert and March, 1963)、企業の国際化プロセスの背後にある駆動力としての学習を強調している。そのため、企業は国際的関与を少しずつ高めるものであり、小さなステップで国際化を進める、と仮定している(Johanson and Vahlne, 1977)。こうしたウプサラモデルの仮定に基づいて、Barkema et al. (1996) は、オランダ企業 13 社の 1966 年以降の 225 の海外拠点のデータを用いて、実証分析を行った。その結果、立地からの学習(locational learning)について新たな発見として、先行経験からの学習は、本国、同一文化ブロック、本国と類似した文化ブロックの順に影響があることを発見したのである。このことは、経験的知識(Johanson and Vahlne, 1977)というアイデアを支持するものであり、経験的知識は同一国における後の成功を高めることを示唆している。以上のような発見事実が得られたわけだが、最も重要な点は距離について動態的視点の重要性を明らかにした点にある。

もう1つの重要な研究が、Zhou and Guillen (2015)である。彼らは、本国に対して「ホームベース」という新たな概念を提示した。先行研究では LOF を本国からの距離として捉えてきたが、「ホームベース」という視点を導入することで、動態的に LOF を捉えようとしたのである。多国籍企業のホームベースを「企業が事業経験を蓄積した国の組み合わせ(本国を含む)」として定義している。したがって、純粋な国内企業の場合は本国と同義であるが、国際化を進めた企業の場合は大きく異なる。そして、1991年～2007年における中国の上場企業による対外直接投資を対象として実証研究を行った。この研究では、距離の尺度として Berry, Guillen and Zhou (2010)の距離の次元を用いて、多国籍企業の立地戦略は本国よりもホームベースの特性に強く影響を受けることを発見した。この研究の重要な示唆として、特に2点を指摘できる。第1に、本国を同じくする2つの企業がある受入国へ参入したとしても、LOFは異なる。第2に、距離は外生変数ではなく内生変数としてとらえることできる。

この2つの論文に代表されるように、最近の先行研究は LOF の尺度の1つである距離について対して有益な視点をもたらしている。従来は Ghemawat (2000)に代表されるように、暗黙裡に距離は外生的なものとして捉えられていた。距離は企業にとって与件であり、企業は距離を勘案しながら立地選択が行うものと捉えていた。しかし、この系譜の研究では、距離を動態的なものと捉えている。つまり、距離は変化するのである。その際にカギとなるのが、経験である。距離は変化するのみならず、自社経験や他社経験を通じて現地市場や国際市場に関する学習を進めていくことで、距離は変わるのである。距離が内生変数として捉えられているのである。

B 会場①

そこで、本研究では、以上の国レベルで行われた先行研究に基づいて、中国市場における地域レベルにおける立地選択に関する仮説として、次の3つの仮説を設定する。

H1：日本企業は、中国市場における2拠点目以降の立地選択において、最初に設立した製造拠点から距離の近い地域を選択する傾向がある

H2：日本企業は、中国市場における2拠点目以降の立地選択において、すでに設立した製造拠点から距離の近い地域を選択する傾向がある

H3：日本企業は、中国市場における2拠点目以降の立地選択において、ホームベースからの距離の近い地域を選択する傾向がある

Ⅲ. 分析対象と方法

分析対象

本研究の分析対象は、1988年から2016年までの日本の自動車部品メーカーによる中国進出における立地選択である。本研究の立地選択は、製造子会社の設立時の立地選択を扱い、販売子会社や研究開発子会社の設立時の立地選択は扱わない。分析対象となる日本の自動車メーカーの選定は、①代表的な業界団体の1つである日本自動車部品工業会に所属している、②株式上場し財務情報を公開している、③中国進出に関するデータ（進出の有無や時期など）の入手が可能である、の3つの基準に基づいて行った。その結果、85社が選定され、拠点数は275拠点になった。

さらに、立地選択の対象は、中国製造拠点の省、直轄市、および自治区単位（以下、地域とする）である。基本的な観測数は、7,150である（275拠点×27地域）。

データの収集

日系自動車部品メーカーの中国進出における立地選択のデータは複数の資料に基づいて収集した。まず、『日本の自動車部品工業各年版』、『中国進出企業一覧』（蒼蒼社）、『中国進出世界部品メーカー総覧2005』（FOURIN）、『海外進出企業総覧各年版』（東洋経済新報社）の4つの資料を使用して、製造拠点の設立時期と設立地域のデータを収集した。さらに『有価証券報告書』、各会社の公表資料、日経テレコン21などを使ってデータを確認した。

変数

本研究の目的変数は、企業が何年にどの省を選択したかどうかとい立地選択である。選択された地域には「1」、それ以外の地域については「0」の値をとるダミー変数となる。説明変数は、既存の製造拠点からの距離（仮説1と仮説2）、既存の製造拠点からの距離に既存拠点での事業経験年数を加重した値（Berry, Guillen and Zhou (2010)の距離尺度を中国の省レベルに応用）（仮説3）、さらに上記の値に事業経験年数の前半を加重した値と後半と加重した値（仮説3）で測定した。制御変数としては、地域ごとの特性データとして、GDP、一人あたりGDP、インフラの整備度、労働者の賃金、経済開放度（経済特区など）、自動車生産台数などが挙げられる。

貢献

B 会場-①

本研究は、企業の海外直接投資行動について拠点からの距離と立地選択の関係を分析している。海外直接投資理論における鍵概念である *liability of foreignness* は、本国と投資受入国の関係を想定していた。それに対して拠点からの距離と拠点での経験を分析に含めた本研究は、*liability of foreignness* の適用範囲を本国と投資受入国間ではなく、本国とは異なる拠点と新たな投資先との間に転換していることになる。これは本国と投資先との *liability of foreignness* を考慮に入れないで企業の海外直接投資行動を議論することになり、これによって得られる知見は、国際ビジネス研究に対して貢献度が高く、企業の経営者に対しても従来とは異なる示唆を与えることになるだろう。

参考文献

- Barkema, H. G., Bell, J. H. and Pennings, J. M., "Foreign Entry, Cultural Barriers, and Learning," *Strategic Management Journal*, 17(2): 151-166, 1996.
- Berderbos, R., Olfen, W. V. and Zou J., "Generic and Specific Social Learning Mechanizms in Foreign Entry Location Choice," *Strategic Management Journal*, 32(12): 1309-1330, 2011.
- Berry, H., Guillen, M. F. and Zhou, N., "An institutional approach to cross-national distance," *Journal of International Business Studies*, 41(9): 1460-1480, 2010.
- Chan, C. M., Makino, S. and Isobe, T., "Interdependent behavior in foreign direct investment: The multi-level effects of prior entry and prior exit on foreign market entry," *Journal of International Business Studies*, 37(5): 642-665, 2006.
- Cyert, R. and March, J., *A Behavioral Theory of the Firm*. Englewood Cliffs, NJ: Prentice-Hall, 1963.
- Ghemawat, P. "Distance Still Matters: The Hard Reality of Global Expansion", *Harvard Business Review*, Sep, 137-148, 2001.
- 林正「産業集積と海外製造拠点の立地選択」『商学論集』第 81 巻第 1 号、2010 年。
- Hymer, S., *The International Operations of National Firms: A Study of Direct Investment*, Cambridge, MA: MIT Press, 1960 (published in 1976). (宮崎義一編訳『多国籍企業論』, 岩波書店, 1979 年)
- Johanson, J. and Vahlne, J.-E., "The Internationalization Process of the Firm: A Model of Knowledge Development and Increasing Foreign Market Commitments," *Journal of International Business Studies*, 8(1): 22-32, 1977.
- 齋藤泰浩・竹之内秀行「多国籍企業の立地選択に関する先行研究の検討：距離、経験、ダイナミック LOF」『Economic Research Society of Sophia University』68 巻、1-19 ページ、2017 年
- 竹之内秀行・高橋意智郎「中国市場への進出における相互依存的立地選択鼓動と環境の不確実性」『日本経営学会誌』第 43 号、40-52 頁、2019 年。
- Vernon, R., "The Product Cycle Hypothesis in a New International Environment," *Oxford Bulletin of Economics and Statistics*, 41(4): 255-267, 1979.
- Zaheer, S., "Overcoming the Liability of Foreignness," *Academy of Management Journal*, 38(2): 341-363, 1995.
- Zhou, N and M. F. Guillen, "From Home Country to Home Base: A Dynamic Approach to the Liability of Foreignness", *Strategic Management Journal*, 36(6): 907-917, 2015.